

森林循環促進事業

スギ花粉の削減と多摩産材の安定供給を目的とした「森林循環促進事業」を行っています。



平成 27 年度は約 10,300m³ の木材が切り出され、原木市場へ出荷されました。また、花粉の少ない森づくり運動を展開して、企業や都民等と連携した森林整備を進めています。

とうきょう森づくり 貢献認証制度

森づくり活動の実施や多摩産材を利用した企業や都民の皆さまに対し、東京の森づくりへの貢献と、二酸化炭素吸収量及び固定量を認証する制度です。

森づくりによる森林整備の促進



【森林整備サポート認定】

0.1ha 程度の小さな森林面積での森づくり活動（下刈や間伐）を認証。企業等の CSR 活動に用いることもできます。



【二酸化炭素オフセット認証】

概ね 10ha 以上の森林面積での森づくり活動を認証。カーボンオフセットが可能で、J-VER（環境省）とも関連性をもたせ、将来的に移行も容易にできます。

木材利用による森林整備の促進



【什器による二酸化炭素固定量認証】

認証を受けた製材業者は、自社製品に認証ロゴおよび二酸化炭素固定量を表示したシールを貼ることができます。また、認証された什器をまとめて購入した企業などは木材利用による貢献を認証します。



【建築物による二酸化炭素の固定量の認証】

申請した建築主には多摩産材の炭素固定量を、施工業者には多摩産材利用に対する貢献について、それぞれ認証書を授与します。

にぎわい施設で目立つ 多摩産材推進事業

終日多くの人が集まり、誰でも利用できる民間事業者が運営する施設（にぎわい施設）での多摩産材の活用を支援しています。



※使用画像はイメージです

人々の『にぎわい』から、 東京の街と森の『色あい』を創る

利用する人が多摩産材を見て触れることができる『にぎわい施設』での PR 事業や広報活動を通じて、多摩産材の利用拡大に繋がっていきます。

多摩産材 利用拡大への 取り組み

SGEC / CoC 認証

当財団が管理する青梅市、あきる野市、八王子市、町田市、奥多摩町、日の出町、檜原村内、合わせて 879.47ha の森林を対象に SGEC 認証を取得しました。
また CoC 管理事業体としても SGEC 認証を取得しました。



SGEC は、持続可能な森林経営を行っている森林を認証する森林管理認証と、認証森林から産出される認証生産物の加工・流過程を認証する CoC 認証の 2 つを定めています。



多摩産材 情報センター

多摩産材の製品や調達に関する
ご相談にお応えする相談窓口

「住宅の柱や梁、内装材に多摩産材を使いたい。」
「公共工事の土木資材に多摩産材を使いたい。」
「施設の床や壁、什器を多摩産材で木質化したい。」
このようなご相談について、認証材を販売している製材業者の中から、ニーズにあった業者をご紹介します。

多摩産材情報センター

〒198-0036 東京都青梅市河辺町 6-4-1 青梅合同庁舎1階 受付は 9 時 -17 時（土日祝日、年末年始除く）
TEL: 0428-20-1181 FAX: 0428-25-0028 E-mail: tamasan-zai-info@tdfaff.com



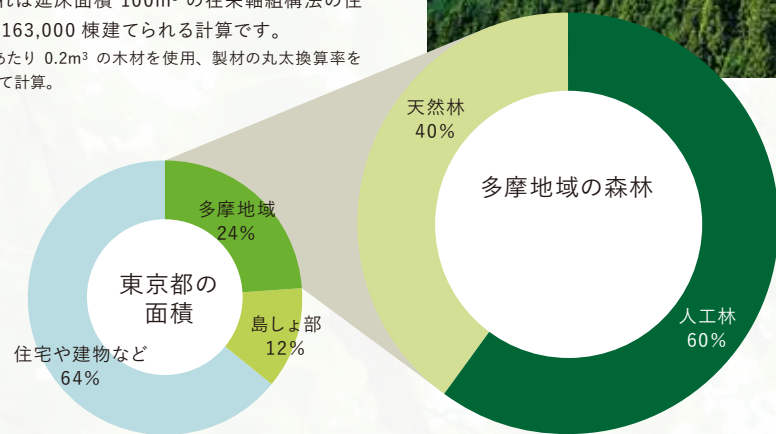
<http://www.tamasan-zai.tokyo/>



※多摩産材情報センターは、東京都からの委託を受けて（公財）東京と農林水産振興財団が運営しています。

東京の森の現状

東京の総面積の約4割は森林が占めており、その面積は約79,000haに及んでいます。また、多摩地域には約53,000haの森林があり、そのうちスギ・ヒノキ等の人工林が約6割を占めています。多摩地域の森には、木材として利用可能な50年生を越えるスギ・ヒノキが約650万m³存在します。これは延床面積100m³の在来軸組構法の住宅が約163,000棟建てられる計算です。※1m³あたり0.2m³の木材を使用、製材の丸太換算率を50%として計算。



都内唯一の原木市場

都内唯一の原木市場である多摩木材センターでは、毎月2回の市が開催されています。平成27年度は24回市が開催され、約14,500m³の原木が取引されました。

このうち、財団が実施している森林循環促進事業（平成26年度まではスギ花粉発生源対策の主伐事業）による材が約7割をしめており、年間を通して安定的に木材が市場に供給されています。



▲50年生を越えるスギ・ヒノキ 約650万m³



▲延床面積100m²の在来軸組構法 約163,000棟



▲市日の様子

原木市場の概要

名称：多摩木材センター協同組合
住所：西多摩郡日の出町大久野7689番地
敷地面積：25,850m²
市場面積：11,263m²
取扱樹種：スギ7割：ヒノキ2割：その他1割
平成27年度多摩産材取扱量：12,400m³

都民の暮らしを支える多摩の森林と木材

森林が有する様々な機能は、私たちの安全で安心な生活を支えています。身近な多摩産材を使うことは、木材輸送距離の短縮により、環境負荷の低減につながります。また、東京の風土で育った多摩産材は快適な家づくりや暮らしをもたらします。さらに、地元の製材所や市場、大工、工務店、そして森林を整備する林業事業者が潤い、地域が元気になります。

01 森林は空気や水を浄化します。

森林は、二酸化炭素を吸収して酸素を出す「天然の空気清浄機」です。また、雨水を蓄え、ミネラル類を多く含んだおいしい水を提供する「天然の浄水器」であり、気温を下げる「天然のクーラー」の役割もあります。



浄化

02 森林はわたしたちの憩いの場であり、あらゆる生き物のすみかです。

保健休養機能の高い森林は、私たちの身体をリフレッシュさせてくれます。また、多様な植物が生育している森林は、多種多様な生き物が安心してすむことができます。



リフレッシュ

03 木材は環境やわたしたちの身体に優しい資源です。

木材は再生産、再利用が可能な環境に優しい資源です。木造の建物は、カビやダニの発生を抑制し、香りやぬくもりの癒し効果、「夏は涼しい」「冬は暖かい」といった高い断熱性と保湿性、衝撃吸収能力があり、そこに生活するわたしたちの身体に優しい資源です。



身体にやさしい

04 適期の伐採は、花粉飛散量を抑制し、地球温暖化防止に寄与します。

スギの花粉が大量に生産されるのは、通常30年生を超えてからといわれています。また、スギの二酸化炭素吸収量が最大となるのは約20年生で、その後は減少していきます。木を伐って使って植えて育てて、また伐ってといった森林資源を循環させていくことが重要です。



花粉飛散抑制

多摩産材活用事例



住宅

在来軸組工法で作られた住宅。真壁工法や表し梁など家全体に多摩産材が使用されています。



木製玩具

市内で切れだされた木材を使った地産地消つみ木。八王子市ふるさと納税のお返しになっています。



レストラン

多摩産材の杉で作られたイスや机が置かれたレストラン。



学校

無塗装の素材を使った教室。木のぬくもりが感じられます。



駅舎

武蔵五日市駅では天井、壁、ベンチなどに多摩産材が使用されています。



幼稚園・保育園

五感が豊かな乳幼児期に、木とふれあい、体感し、子どもの健やかな成長を育みます。



土木

治山ダムや木道の土留めなど、土木資材としても使用されています。